

東京薬科大学新聞

発行・編集
東京薬科大学新聞会
東京都八王子市
瑞之町1-1-1責任者
藤城弘子平成13年10月5日
発行

http://www.toyakinewa.hoops.ne.jp/

前期警告結果発表

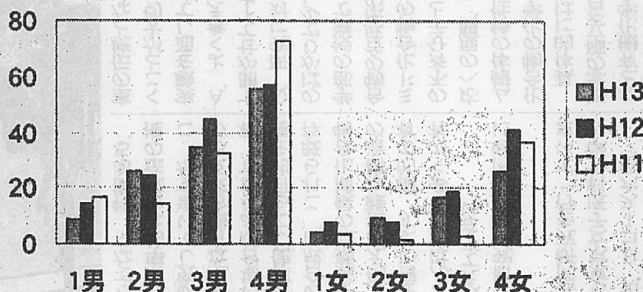
H13 前期警告者(人数)

	男	女	合計
1年生	23/266	9/208	32/474
2年生	72/275	21/218	93/493
3年生	96/277	33/200	129/477
4年生	145/262	54/209	199/471

前期警告率(学年別:%)

学年	1	2	3	4
H13	6.75	18.86	27.04	42.25
H12	11.61	17.43	33.67	50.11
H11	11.21	8.91	20.47	57.30

前期警告率(男女別%)



後期の授業も始まり、ようやく夏休み気分も抜けるこの時期、前期試験の結果を受け取り、その結果に一言「憂し」となる。

前期警告とは薬学部前期試験の結果、一〜三年では五単位以上、四年では一単位以上が未修得の場合に送られる警告状のことである。

右のグラフは過去三年間の警告率である。昨年と比較して、今年は全体的に警告率が

下がった。特に一年生は男女とも警告率が下がっており、努力の賜が伺える。また、男女性別で比較してみると、やはり男子の警告率は女子より高く、二倍以上になっている。学年が進むにつれて警告率が上がる傾向にあるが、これは実習などもあり授業内容も幅広く

り、ただ教科書を眺めているだけでは頭に入らない。他のことに気を取られずに、やるべきことをやる姿勢を身に付け、その中で自分に合った勉強法を見つけていけるよう、前期警告を受けた人は今一度自分を見直してみるべきだろう。

信頼できる薬剤師が必要とされている。それだけ薬剤師に対する期待が高くなる。薬剤師という専門職に最低限必要な知識は今、身につけるものであり、社会の期待に応えるためにも、学生のときにしっかりと土台を作っておくことが大切だ。本学の薬学生には患者にも、世の中にも信頼される薬剤師になってほしい。将来の自分を見据え理想を高く持って、今やっている内容を確実に自分のものにできるような勉強をしていきたいものだ。

また例年、院試に合格して入試結果が発表された。左表は本学から本学大学院への合格者状況である。

薬学部に関しては、五月に行われた推薦入試では薬学及び医療薬学共に応募者及び合格者数は去年並であった。一方、八月下旬に行われた一般入試においては、薬学のみ大きな変化が見られた。受験者が去年に比べ三十二名増と大幅に増え、それに伴い合格者も十名増えたのである。受験者数が増えた要因としては、向学心から進学希望者が増えたことが挙げられる。しかし、一方で就職に際して大学院進学

の必要性を感じたり、進路未決定の人が多く受験したこと無視できない。

生命科学部に関しては、応募者数九十三名と去年よりも九名増加した。合格者数は五十九名(うち他大学者三名)と去年より四名の減少となった。また本学から他大学院への合格率は全体的に良い傾向にある。

と手塚氏と比へ四名の減少となった。また本学から他大学院への合格率は全体的に良い傾向にある。

応募者が増えた主な理由として、大卒では営業職が多くを占めるのに対し、院卒では就職の幅が広がるという点が挙げられる。ところで、大学側はこの応募者数の増加と定員数を問題視している。生命科学部の大学院では当然全員が実験をするため物理的にこれ以上の定員の増加は難しい。今年度の大学院志願者数は四年生全体の六十一%に達した。大学院志願者数は例年増える一途である。定員数をどう増やしていくかが大学院側の今後の課題となっている。

()は昨年比

夏の日差しも和らいて穏やかな気候になり、外では鈴虫の音色が聞こえてくる。そんなちよつぱり物悲しい秋の名月の輝く季節。長い夜の中、その姿は美しく、海面に映し出されたときには、まばゆいばかりの光となって無数に映しだされる。小秋といえは食欲の季節だが、先人は小さな知恵を残している。今の時代聞きえない「食べ合わせ」と言う言葉を知っているだろうか。例えば「鰻と梅干を同時に食べると中毒を起こすから注意するように」と言われる。ここには科学的根拠などではなく本当なの解らない。それでも身体に良い取り合わせ、悪い取り合わせは口伝され続けた。これは少ない種類の食べ合わせの組み合わせで、価値ある組み合わせだったのだらう。だが、その心を忘れずに、現代の数ある食材の中で、新しい「食べ合わせ」に気をつけてみてはどうだろうか。それは、決して過去の遺物に留まらず、私たちの利益となるだろう。これからの時代、家庭での食事作りに費やされる時間が、短縮されていき、かつての「お袋の味」が「袋の味」に変わっていく。そんな中、手作りが「こ馳走」となり手作り料理が最高のものとなしにもなる。そんな時代へ進んで行くのだろうか。

(E)

薬味

平成十三年度本大学院入試結果

薬学研究科 薬学専攻

平成十三年度本大学院入試結果

薬学研究科 薬学専攻

		受験者	合格者	倍率
推薦	本学	17 (-1)	17 (-1)	1
一般	本学	83 (+32)	55 (+10)	1.5
計	本学	100 (+31)	74 (+11)	—
	他	5	2	—

薬学研究科 医療薬学専攻

		受験者	合格者	倍率
推薦	本学	12 (0)	12 (0)	1
一般	本学	18 (+4)	12 (0)	1.5
計	本学	30 (+4)	24 (0)	—
	他	0	0	—

生命科学部 生命科学専攻

		受験者	合格者	倍率
推薦	本学	20(+2)	20(+2)	1
一般	本学	70(+7)	38(-7)	1.8
計	本学	90(+9)	58(-5)	—
	他	3	1	—

()は昨年比

米同時多発テロ事件

～アメリカ人の心境に浸って～

先月十一日の米同時多発テロ事件が発生したとき私は大学の研修でシアトル（州立ワシントン大学）に滞在していた。事件が起きたニューヨークとシアトルは時差にして約三時間の距離がある。現場に居合わせたわけではないが同じアメリカにいたからこそできた体験をここで語りたい。

事件はシアトルの早朝に発生。朝食時、複数ある食堂の中でもTVのある部屋は異常なほどの混雑を見せていた。食堂の入り口で無料配布されている新聞も、あっという間に多くの人手に渡った。

翌日は私たちの出国予定日だったが、当日添乗員より航空券のキャンセルが伝えられた。航空会社よりこのことが発表されたのは大学の寮を出発する一時間前だったので、スーツケースに荷物を詰め終わり日本に思いを

馳せていた私にとってその知らせは無情であった。

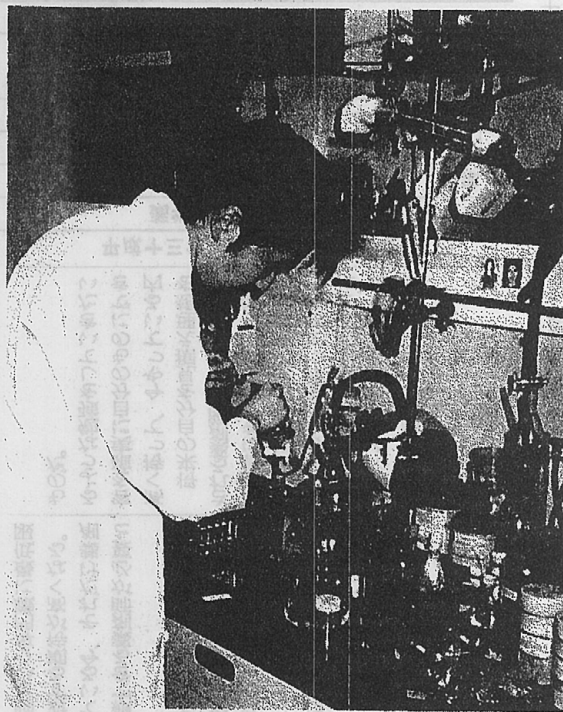
そして地方紙の一面には泥まみれで焼けた少女の顔の写真が掲載されていた。おそらく日本ならば報道規制がかけられていただろう。日本とアメリカの文化の相違を感じずにはいられなかった。

事件から五日後、私は友人とシアトルセンターに向かった。バスの窓から見える家の多くには星条旗が掲げられていた。アメリカのニュースによれば事件後、星条旗の売上げ数が急増しているらしい。シアトルセンター内の噴水の周りには今回のテロ事件の犠牲者を弔う目的で花束や手紙、写真、ろうそくで埋め尽くされていた。地方紙によると四日間で約八千人の人々が訪れ五十万もの花が献花されたらしい。そこには行方不明の夫の生存を信じてやまない妻の手紙、

世界貿易センターの一回目の爆撃で負傷者の救助に向かい、二回目の爆撃で命を落とした消防士の家族の手紙などがあった。このような惨劇は二度と繰り返されるべきではない。最後に、今回のテロ事件で犠牲になられた方々のご冥福を心よりお祈り致します。



▲九月十六日付 The Seattle Times紙より



合成薬品製造学研究室では、有機フッ素化学を含めて新規合成反応の開発を行っている。その中で、田口教授は独創性・新規性・有用性にポイントを置いて研究を進めている。Q. 構成人数はどうなっているのでしょうか。A. 教員は四名います。大学院生は博士課程が二名（一年生二名）、修士課程が四名（一年生二名、二年生二名）です。

Q. この研究室の研究内容について教えてください。A. 皆さんは授業で多くの有機反応を習います。標的の有機分子（例えば複雑な構造の天然物や医薬品の候補化合物など）の合成に、これら既存の反応を駆使しても目的を達し得ない場合があります。私達は、新規な有機合成反応の開発を研究していますが、これはより効率的な合成法の提案ばかりでなく、特徴ある、



田口 武夫教授

です。卒業生は十一名（Aコース十一名、Bコース六名）。それから東京女子医科大学の三名と共同研究を行っています。Q. 具体的な研究内容について教えてください。A. 有機フッ素化合物の化学、②シリコン化合物の特性の研究と合成反応への展開、③新しいタイプミッド化合物の化学、④環状化合物の合成法の開発などです。Q. 研究に対する姿勢について聞かせて下さい。A. よく考えながら、日々の実験を通して深く研究していくことが大切で、それが研究室の伝統となっていくことに

研究室ランダムウォーク 合成薬品製造学教室

自然と動物を愛し、これまでも数々の美しいシーンを捉えてきた写真家、ハンス・シルベスター。

幸福感に満ちた表情の猫とすがすがしい地中海の風景を写し出した、彼の写真展が港区赤坂で開催されている。今回の写真展には地中海に浮かぶギリシャのシクレイド諸島を渡り、約三年間、猫を追いつけて撮影した作品五十五点が並ぶ。光が降り注ぐこの島では猫は島民の良き隣人である。食事から居寝に至るまで人々と生活に共に、実に穏やかな暮らしを送っているのだ。彼はこの島で「猫を追いかけて回す変わり者」と呼ばれながら、その幸福感に満ちた猫たちの表情をつぶさに捉えた。エーゲ海の青い海と空、

ハンス・シルベスター写真展

「地中海の猫たち」

白い石で造られた静謐な建物など、地中海の風景と共に、観る者までも穏やかな気持ちにさせてくれる写真展である。ハンス・シルベスターは一九三八年にドイツで生まれ、十二歳で初めて写真を撮影。自然と動物を愛する彼は、馬を撮影した作品で写真家として認められる。以来アマソンの森林破壊についてのルポルタージュを発表するなど、精力的な活動を展開している。また、鳩を観察しているうちに猫への興味が芽生え、本展のシリーズが生まれた。丸の内線赤坂見附駅、東京写真文化館にて、十一月十八日（日曜日）迄開催。

より活力ある明日につながるべく考えています。Q. 最後に在学生に一言お願いします。A. 自分が興味を持てるものを学問領域の中で探して下さい。そしてそれについて深く学び、考えていって下さい。自分でチャレンジしていくことが大事です。

行事予定

十月
十日（水） 体育祭
十七日（水） SFC試験
二十日（土） 父母懇談会

研究室は緊張と笑いと共に共存していた。真の研究員たるべき姿を垣間見たような気がした。